

# 施策マネジメントシート（令和 4 年度目標達成度評価）

第2次 総合計画 体系	政策 No.	9	政策名	市民みんなが観光ガイド!ひとがひとを呼ぶまち
	施策 No.	1	施策名	情報発信の充実
施策主管課	総務課		施策関係課名	議会議務局・総合戦略課・企画政策課

## 1 施策の目的（①対象③意図）と指標（②対象指標④成果指標）等の推移

①対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		③意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)						
A.市民 B.市外の人		A.必要な情報をいつでも、どこでも入手できる B.小城市を知ってもらう						
④成果指標 (意図の達成度を表す指標)		単位	数値区分	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	成果指標の達成状況及び要因
1	自分が知りたい市に関する情報を容易に知ることができている市民の割合	%	目標値	67.0	68.0	69.0	70.0	1)概ね達成。実績値は、令和元年度から3年度までは年々上昇していたが、令和4年度は、前年から1.7ポイント低くなり、目標値には、0.7ポイント足らず達成ならなかった。しかし、SNSや情報アプリOgiOgi等の導入により、市に関する情報収集の利便性は向上しているものと考え。今後も引き続き、多様な情報発信手段を検討していくとともに、迅速かつ正確な情報収集手段として市民に広く認知・活用していただけるよう推進していく。 2)達成。実績値は、目標値を上回る形となったが、前年度(令和3年度)と比較すると1.4ポイント減となっている。新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント等の開催を自粛せざるを得なかったことなどが要因として考えられる。
			実績値	66.3	68.0	68.9	68.9	
			達成率	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
2	小城市の魅力を市外の人に伝えたことがある市民の割合	%	目標値	29.0	30.0	31.0	32.0	
			実績値	31.5	31.5	31.5	31.5	
			達成率	108.6%	105.0%	101.6%	98.4%	
3			目標値					
			実績値					
			達成率					
4			目標値					
			実績値					
			達成率					
5			目標値					
			実績値					
			達成率					

## 2 施策（基本事業）の振り返り

基本事業	(施策の目標達成に向けて、どのように取り組んだか。)
わかりやすい情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小城市の行事や事業等を広く市民に広報し、市政に対する理解と協力を求めるとともに、市民参加によるまちづくりの一助とするため広報「さくら」を発行し、全世帯に配布した。(月1回/毎月20日発行)</li> <li>・市議会の活動内容を市民に広く知ってもらうため、「おぎ市議会だより」を年4回発行し、全世帯に配布した。</li> </ul>
多様な情報発信環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市からのお知らせや情報を正確かつ速やかに発信できるよう、ホームページ、SNS、情報アプリOgiOgi等を活用し、随時、最新の情報を提供できるよう努めた。</li> <li>・市報や議会広報紙については、全世帯へ紙面で配布するとともに、記事へ二次元コードを掲載し、詳細については市ホームページから閲覧できるよう工夫することで、多様な情報発信手段の充実を図った。</li> <li>・議会中継(ライブ中継・録画中継)においては、インターネット配信やケーブルテレビでの放映を行った。</li> </ul>
地域の魅力発信の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天山から有海までの様々な地域資源を題材に、「おぎまんが」を始め、VRツアーやおぎツール、おぎぶら、おぎめし等の動画コンテンツを制作し、メディアやSNSを通じて、地域の魅力を市内外に分かりやすく発信した。また、「おぎスナップ」と題し、普段の何気ない小城市の風景を切り取った写真を撮影し、SNS等で発信した。</li> <li>・佐賀新聞社の企画により、市内の高校生から市への提言を行う事業や、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に登場する鎌倉幕府の立役者の一人、千葉常胤(つねたね)の子孫とゆかりのある松尾山光勝寺(小城市町)との繋がりを活かした事業としてトークライブを実施した。</li> </ul>

## 3 施策の課題（基本計画で掲げた施策の「現況と課題」、成果指標の達成状況を踏まえて、次年度以降に向けた施策の課題）

<p>様々な発信媒体を利用し、多様な情報発信環境の充実を図っているが、市に関する知りたい情報を容易に知ることができる市民の割合は7割程度に留まっている。また、定期的に小城市の情報や魅力等を、動画配信やSNS等により発信しているが、視聴・閲覧回数が伸び悩んでいる。</p> <p>まずは、様々な情報収集手段があることを認知してもらうとともに、幅広い年代に対応した発信方法の検討と広報・プロモーションにおける職員のスキルアップが必要であると考え。</p>
---

## 4 今後の取り組み（課題解決に向けた今後の取り組みの方向性・内容等）

<p>市報、ホームページ、SNS等での情報発信や「おぎツール」などの動画配信等の取り組みは継続して行っていく。一方で、比較的利用者の多いLINEやTikTok、InstagramなどのSNSを有効的に活用しながら、人々に影響力のあるインフルエンサーを起用するなど、情報や魅力を市内外に幅広く発信する新たな手法を検討する。</p> <p>これら媒体の活用や発信方法等について、研修等を実施し、魅力的な情報発信を行えるように職員の人材育成も合わせて行っていく。</p>
--